



Story of their Success

合格発表の瞬間は、どんな感じでしたか？

堀端：家で、両親と僕とでそれぞれスマホ持って。家族で大喜びしました。

二次試験が終わって発表まで、手応えはあった？

堀端：二次が終わった瞬間は手応えがありました。数学が結構できたので。でも、だんだんメンタル的に落ちてきて、ダメかなあ…ってなっていました。共通テストは、高3の夏前にはなんとかになっていたけど、二次が伸び悩んでいたの。夏頃は"もうちょっとできるかな"って自分でも思ってたんですけど、夏の東大プレが返ってきて"あれ？こんなもん？"って。勉強しないと思って思いました。で、夏から秋まで結構頑張った。秋の模試のタイミングまでに、過去問以外の問題演習的なことは全部終わらせようと思って、過去問はほとんどやってなかったです。でもその模試が自分的には最悪の出来でした。まあでも、勉強するしかないと思ってたし、なんとかかなると思ってた部分もあったかな。自分が日々勉強してる実感として、模試の判定よりも実際はもうちょっとできるはずだと感じてた。受験勉強は、理科と英語をとりあえず固めて、数学と国語はそこまで勉強しなくていいというスタンスでした。

東大を受験しようと思ったのはいつ？きっかけは？

堀端：決めたのは高2の終わりくらいです。中3の頃から"いい大学に行きたいな"って漠然とあっていて。高1の頃は旧帝大のどこかと思っていて、東大は全く考えてなかったんですけど。模

試の成績が良かったので(笑)。東大もありがたくなって思い始めて。あと、東大の野球部のマネージャーの人が向陽の野球部に来てくれた時があって。それもきっかけではあったかな。

高1・2年の間、野球部と勉強の両立はどうだった？

堀端：英単語はやろうかなって思っていました。英単語は毎日やって。で、テスト期間は"受験につながる"と思って必死に勉強していました。しっかり固めて1個ずつ定着させていかないと、と思って。テスト期間は『チャレ勉』にも来て。

OBS：「サッカー日本代表の試合見る」って1コマ早く帰ってた時あったけどな(笑)。何言ってるんやろ？ってなったのめっちゃ覚えてる。

堀端：(笑)。まあ、テスト期間も自分が必要な教科を重点的にやって、社会と国語は赤点をとらない程度にソツなくこなす感じで。クラスの友だちに定期テストの点数で負けないようにしようって思っていました。クラスのレベルも高かったの。そういうのも大事かなって思います。



進学先

東京大学

理科I類

堀端 大貴さん

向陽高校
硬式野球部

インタビュアー

岡 哲司
(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

オブザーバー (OBS)

硬式野球部 4名
(木村さん・西川さん・堀さん・山田さん)

毎日どんな生活をしてたの？1日の流れは？

堀端：部活をやっている時は、0時くらいに寝て、7時くらいに起きてました。引退してからもそうだったかな。夜更かしはよくないと思って。0時、遅くても1時には寝てました。

OBS：同じ生活してて僕らも、いつ勉強しているのか不思議で(笑)

堀端：うーん。引退してからも学校のある日は、終わってすぐ塾に来て22時までやって、そこから帰って、家では何にもしてなかったです。

OBS：不思議！(笑)でも、自習とかでも集中している時間が長くなって印象はある。

堀端：いや、それも時間測ってやってたくらいで、特に秘訣とかはないかな。

OBS：時間測るとか普通！(笑)

難関大対策の講座を勧めたこともあったけど、高1・2の間『ハイブリッドクラス』にこだわった理由は？

堀端：いや、僕は『ハイブリッドクラス』が良かったので(笑)。友だちもいるし。僕自身の感覚では、そこまでレベルが突き抜けていた感じはなくて。Ryu先生の数学の授業も定期テスト対策のときは、文系は文系、理系は理系でレベルに合わせてくれていたし。

本格的に受験勉強を意識し始めたのはいつ？

堀端：1～2年の時も、向陽の環境科学科っていうのもあって受験を意識していたところはあるけど、本格的には高3の春ぐらいに『サテライン』の『東大数学』を受け始めてからです。あ、始まったなと思って。

『東大数学』は、数Ⅲも学校でそんなにやってなかった時期なので、正直ちょっとレベルが高かったです。

『東大英語』を受け始めた時は、まず"東大の二次試験には大問が何個あるか"みたいなことも知らなかったの、各大問の解き方とかを教えてもらって役に立ちました。

高2で受講した化学の代ゼミサテライン講座の印象は？

堀端：高2の時は何にも分かってなかったの"何を言っているんだろう？"みたいな感じだった(笑)。でも「覚える」って言うから覚えようかと思って。でも高3になって学校でも習って分かるようになって"あ、重要なことを言ってたんやな"って思いました。1年間、ペースを崩さず週1で受講できたのは、部活が終わってから野球部のみんなで塾に来てたからというのが大きいです。みんなに来て、サテラインを受けてないメンバーは自習室に行って。

3年間を振り返って、合格した勝因みたいなものは？

堀端：難しい質問…。野球かな。野球で1番バッターで、やっぱり緊張するじゃないですか。それでも冷静に。緊張する中でも冷静に自分のいつもの通りのスイングというか、いつもの通りの身体の動かし方をしようっていう気持ちで、勉強にも影響したかなって思います。模試とかでも緊張はするんですけど、普段の勉強の通りに。いつも通りっていうマインドで。

大学入学後、学部の選択はどう考えてる？

堀端：今、一番行きたいと思っているのは、工学部の航空宇宙工学科。とりあえずそれを目指して勉強しようかなと思っています。飛行機とかに興味があって。ドローンとかもそうですけど、空を飛ぶのがすごいなって。単純な憧れがあるので。

大学でも野球部に入るつもりはあるの？

堀端：やる方向で考えてます。一回は入ってみようかなと。

OBS：歴史に名を残すからな。期待とかプレッシャーがあると大変だけだな。

注)創部100年を超える東大野球部に和歌山県の高校出身者がいないため、入部が注目されています。

後輩に、アドバイスをお願いします。

堀端：勉強面だと、英単語は絶対にやった方がいいと思う。英語ができないって人は、絶対に単語が足りてない。それぐらいかな。勉強で言えるのは。毎日見るとか、夜覚えて朝見るみたいな。そういう、よく言われることをやってたら覚えられるかなと思います。

編集後記 ～インタビューを終えて～



1番センター、高2の夏の大会からスタメン出場。そんな堀端くんの高校生活が、部活中心の日々だったことは疑う余地もありません。その中で、日本最難関大学に現役合格。本当に凄いです。

どれだけ部活が忙しくて、体力的に疲弊していたとしても、毎日のように自習室で勉強していたことが印象的でした。日々の少しの時間の積み重ねが勝因であったことは間違いありませんが、やはり他の部活生とは違い、勉強時間の確保は難しく、能力・学力の問題ではなく「時間が間に合うか」の勝負でした。秋の東大プレで思うような点数まで行かず、心配していましたが、二次試験前に「間に合った気がする…」と話した姿に、頼もしさと、期待を抱いたことを鮮明に覚えています。

インタビューで、「東大現役合格に繋がった勉強は何か？」と聞いた時に、過去問演習でもなく、レベルの高い問題集でもなく、受験勉強の一番の基本である「英単語を覚えること」と答えたことに、驚きと、妙な納得と、そういう小さな積み重ねを大事にして、東大という最難関の現役合格を勝ち得た彼の凄みを、改めて感じる事ができました。

堀端くん、本当に合格おめでとう。高校3年間で培った経験を活かし、社会で活躍することを願っています。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司

